

水痘（みずぼうそう）予防接種について

この予防接種は、予防接種法に基づき、乳児期に水痘の免疫を得るために実施するものです。必ず、本紙をよく読んでから、委託医療機関で接種を受けてください。

対象者

生後12か月から生後36か月に至るまで（3歳の誕生日の前日まで）の間にある者

※ただし、既に水痘に確実に罹患したことがある者は、接種する必要はありません。

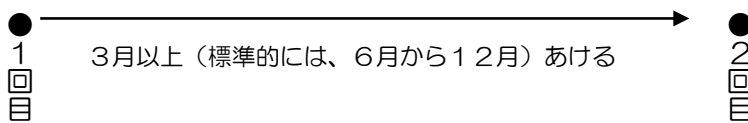
対象年齢に達しているかご確認のうえ受診してください。

接種回数と間隔

接種回数：合計2回

接種期間：生後12か月から生後36か月に至るまで（3歳の誕生日の前日まで）

- ・1回目の接種は、標準的には生後12か月から生後15か月までの間に行います。
- ・2回目の接種は、1回目の接種から3月以上を経過してから行いますが、標準的には1回目接種後6か月から12か月まで経過した時期に行うこととなっています。



生後36月を超えて接種することはできませんので、ご注意ください。

生後12月から生後15月まで

生後36月に至るまで（3歳の誕生日の前日まで）接種可能

病気の概要

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。空気感染、飛沫感染、接触感染により広がり、その潜伏期間は2週間程度と言われています。発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。一部は重症化し、近年の統計によれば、我が国では水痘は年間100万人程度が発症し、4,000人程度が入院、20人程度が死亡していると推定されています。

水痘は主に小児の病気で、9歳以下で発症が90%以上を占めるとされています。小児における重症化は、熱性けいれん、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。成人での水痘も稀に見られますが、成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

水痘には、ワクチンがあり、現在国内では乾燥弱毒生水痘ワクチンが用いられています。水痘ワクチンの1回接種により重症化の水痘をほぼ100%予防でき、2回接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。

副 反 応

予防接種は、重篤な病気の発生や流行の阻止に大きな成果をあげていますが、ごくまれに副反応をおこすことがあります。

主な副反応は、下記のとおりです。

◎過敏症：接種直後から翌日に発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱等があらわれることがあります。

◎全身症状：発熱・発疹が見られることがあります。一過性で通常、数日中に消失するとされています。

◎局所症状：発赤、腫脹、硬結等があらわれることがあります。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(呼吸困難、血管浮腫など)、急性血小板減少性紫斑病などがあります。定期的予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づき補償を受けることができます。

注 意 点

(1) 予防接種は健康な人が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものです。体調の良い時に受けることが原則です。お子さんの体調をよく理解した保護者がお連れください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱（通常37.5度以上）している人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 予防接種等によりひどいアレルギー反応を起こしたことがある人
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

(3) 予防接種を受けるに際し、主治医とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 過去の予防接種2日以内に発熱・発疹等のアレルギーを思わせる異常がみられた人
- ③ 過去にけいれんをおこしたことがある人
- ④ 免疫不全があると指摘されたことがある、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーをおこすおそれのある人

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 副反応の多くは1週間以内に出現しますので、この間は体調に十分注意しましょう。
- ② 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい活動は避けましょう。

<問い合わせ先>

子育て支援課 0774-64-1377(直通)

